



挑戦するからこそ、得られるものがここにある。

2018 *Winter special training camp* 冬期特訓合宿

対象 中学受験生(小5・6) / 高校受験生(中2・中3) / 大学受験生(中3~高3・高卒)





頂点に挑む

挑戦するからこそ

得られるものがここにある。

私たちは信じています。

「やればできる」からこそ、「できるまでやる」受験生が誰よりも強いということ。

受験を迎えるその日に、あなたの実力がもっとも発揮できようになることを。

そして、本当に頑張っているあなたが、「夢の志望校」に合格できることを。

より高いレベルを目指し、目標とする「夢の志望校」の合格に向けて、

一步一步挑戦する受験生を、私たちはサポートします。

質・量ともに、誰よりも充実した受験勉強をするために、

ぜひTOMASの合宿にご参加ください。

 TOMAS

夢の志望校合格を目指して 真剣勝負で競い合う!

限られた時間を最大限に活かす

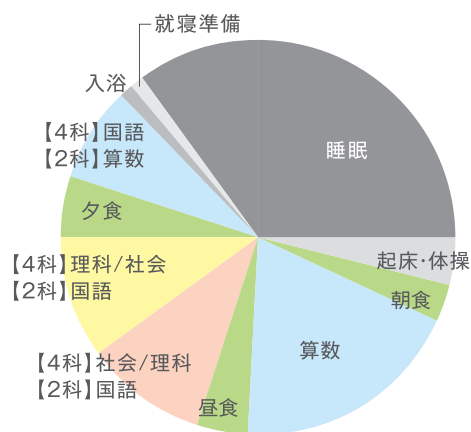
いよいよ入試の直前期を迎えます。小6受験生にとって、入試までの残された期間はあとわずかです。入試本番で1点でも多く得点できるように、1問でも多く問題量をこなし、1つでも多くの知識を身につけることが、合格につながります。そして、「できる問題」で1問でも失点しないように、スピードと正確さを磨くことが重要です。ただ「できるかどうか」ではなく、「何分何秒でできるか」が入試直前期の学習では欠かせません。

ただ、これらの意識を持って学習を進めていくことは決して簡単ではありません。そこでこの合宿では、問題を解くための目標時間を細かく設定し、分刻みのスケジュールで動かしていくことにより、時間の感覚を養います。また、同じレベルの志望校を目指す生徒たちを集団の中で切磋琢磨させることで、できる問題を増やす、1点でも多く取るということを強く意識させます。この合宿を通じて、直前期に得点上がり、志望校合格を勝ち取った生徒が毎年多数います。

同じ志望校を目指す受験生にとって、残された時間は平等です。その中でライバルよりも1分でも、1問でも多く勉強することが合否の分かれ目となります。勉強のみに集中できるこの合宿に参加し、小6はラストスパートをかけ、小5は今後の勉強への勢いをつけましょう。



合宿における1日のスケジュール



● 授業時間のバランス

4教科選択の場合、算：国：理：社 = 5：2：2：2

2教科選択の場合、算：国 = 7：4

志望校・学力に応じたコース編成

小5 冬期集中特訓

難関特訓コース(算国理社)

男女御三家・早慶附属などの最難関中学を志望する受験生のためのコースです。重要単元の問題演習を通じて、より深い理解と速く正確に解く力を養います。また、日々の計算や漢字などの基礎トレーニングも行います。

教科	難関特訓コース 授業内容
算数	計算トレーニング、速さ、比
国語	漢字・ことばの知識、文章読解トレーニング
理科	水溶液、気体、燃焼
社会	日本の歴史(安土・桃山時代まで)

実力錬成コース(算国理社・算国)

基礎固めや復習を重視したい受験生のためのコースです。重要な頻出単元に絞って、基礎知識や解法を確認しながら、問題演習を通して、知識の定着と速さ・正確さの向上を図ります。

※実力錬成コースは、4科コースと2科コースがあります。
どちらかを選択してお申し込みください。

教科	実力錬成コース 授業内容	
	4科コース	2科コース
算数	計算トレーニング、速さ、比	
国語	漢字・ことばの知識、文章読解の基本トレーニング	
理科	電流、力	
社会	日本の歴史(平安時代まで)	

※クラス分けテストの結果や、クラスの生徒の学習状況によって、一部変更する場合があります。

小6 入試直前特訓

難関特訓コース(算国理社)

男女御三家・早慶附属などの最難関中学を志望する受験生のためのコースです。実践的な問題演習を中心に、問題処理の速さ・正確さを鍛えつつ、得点力を磨き上げます。また、日々の計算や知識の基礎トレーニングも行います。

教科	難関特訓コース 授業内容
算数	計算トレーニング、入試実戦演習
国語	漢字・語句、入試実戦演習
理科	時事問題対策、入試実戦演習
社会	時事問題対策、入試実戦演習

実力錬成コース(算国理社)

基礎・基本問題で確実に得点する力をつけたい受験生のためのコースです。計算や一行問題、一問一答形式の問題を反復演習して知識を定着させ、基本問題で確実に得点する力をつけます。また、実践的な問題演習も行います。

教科	実力錬成コース 授業内容
算数	計算トレーニング、一行問題演習
国語	漢字・語句、読解演習
理科	時事問題対策、一問一答トレーニング
社会	時事問題対策、一問一答トレーニング

※クラス分けテストの結果や、クラスの生徒の学習状況によって、一部変更する場合があります。

小5

冬期集中特訓

難関特訓コース(4科)

実力錬成コース(4科)

実力錬成コース(2科)

夢の志望校合格から逆算した短期集中トレーニング

Q 「難関対策コース」「実力錬成コース」のどちらを選ばいいですか？

A 志望校のレベルと現状の成績に応じてお選びください。

「難関特訓コース」では、発展問題や入試問題を扱います。これらの演習を通じて、問題に対する理解を深めるとともに、身につけた知識や解法を使いこなす力をつけることを重視して授業を行います。また、クラス分けテスト、及び冬期合宿の授業内容の基礎学習が終わっていることを前提に授業を進めます。「難関特訓コース」をご希望の場合は、より高い成果を上げるためにも、是非これらの単元学習を終了させてから合宿に臨んでください。

「実力錬成コース」では、冬期合宿の授業内容を習っていないことを前提として、基礎から学習します。その上で、学習した内容を何度も反復させることで知識を定着させます。この範囲の単元学習がまだ終わっていない、または、一度学習はしたが未定着の部分が多く、得点につなげることができていない、という場合は「実力錬成コース」を選択してください。

Q 「実力錬成コース」の4科コースと2科コースはどちらを選ばよいですか？

A 4教科をバランス良く学習したい場合は4科コースを、計算・漢字を重視したい場合は2科コースをお選びください。

算数と国語のテキストは、4科・2科どちらのコースでも同じものを使用して授業を行います。授業で扱う範囲も同じですが、2科コースでは、基礎を重視し、より丁寧に解説を行います。加えて、計算・漢字・ことばの知識の学習の時間を4科コースよりも多く取り、算数と国語の確固たる土台作りを行います。これらの部分に不安のある場合や、これから算数・国語の受験勉強を始めようという場合は、2科コースをお選びください。

クラス分けテスト 内容

教科	内容
算数	整数・小数・分数の計算 和と差の文章題 割合・平面図形 数の性質・規則性

合宿での授業時間をもっとも多く、かつ学力差が大きい算数の成績をもとにクラス分けを行います。テスト時間は40分です。クラス分けテストは、12/7(金)までにお通りの教室で受験してください。テスト日程については、教室の担当者よりご連絡させていただきます。

理科実験教室



机上の学習ではイメージしづらい水溶液の性質や試薬の色や変化について、実体験を通して身につけます。

小6

入試直前特訓

難関特訓コース(4科)

実力錬成コース(4科)

緊張感の中で確実に得点し、合格を勝ち取る

Q 算数・国語の直前対策のポイントは？

A できるはずの問題で失点しないことが大切です。

入試直前期は、目新しい問題や難しい問題にあえて挑戦するよりも、易しい問題で失点しないように訓練することを優先させるべきです。特に算数はミスをするかしないかで大きく得点が変わり、合格者と不合格者の差がもっとも開きやすい教科です。スピーディに、かつミスなく解く訓練が重要です。

また、国語では漢字・語句・文法など、知識問題での抜け漏れがないように確認が必要です。このようにして、「1点」を手堅く得点することが、合格への早道です。

そこで、この合宿では、そのスピードと知識の正確さを鍛えるために、問題演習を中心とした特訓を行います。

また合宿では、制限時間のプレッシャーがかかる中、他の受験生たちと得点を競い合う中で自分の実力を発揮するための訓練をするなど効果的な学習ができます。1点を争う緊張感の中で、満点をとることにこだわり続けることで、受験生は見違えるように逞しく成長します。

Q 理科・社会の直前対策のポイントは？

A 時事問題対策が得点力アップのカギです。

理科・社会の入試問題の多くは、身近な話題から各分野の知識を掘り下げていく形式で出題されます。最近のニュースになった話題が切り口として使われ、それに関連する分野の知識を問うような出題が一般的です。たとえば、新たに登録された世界遺産があれば、その事実だけではなく、登録に至った経緯や歴史について問われる可能性が高くなります。

この合宿では、そのような最近の時事から入試問題を予想し、それに関連する分野を掘り下げて重点的に復習することで、入試本番での得点力アップを狙います。この対策だけでも、入試本番の合計点で10点や20点は容易に変わります。

クラス分けテスト 内容

教科	内容
算数	全範囲

合宿での授業時間をもっとも多く、かつ学力差が大きい算数の成績をもとにクラス分けを行います。テスト時間は50分です。

クラス分けテストは、12/7(金)までにお通いの教室で受験してください。テスト日程については、教室の担当者よりご連絡させていただきます。



夢の志望校合格に向けて 大幅な成績アップを目指す

競い合いながら、志望校合格を目指す

志望校に合格するために大切なことは、他の受験生より1点でも多く取ることです。そのために大切なことは、「誰にでもできる」問題を、「誰よりも確実に」得点することです。そのためには、ただ「解ける」だけで満足することなく、「何分何秒で」「どうやって」正解にたどりつくかが重要です。

もちろん、国立高校や難関私立高校と、公立高校では、求められる知識・スピード・正確さが異なります。難関高校であればあるほど、求められる知識も多く、高いレベルでスピードと正確さを求められるからです。

そこでこの合宿では、志望校・学力別のクラス編成で授業・演習を行います。同じレベルの志望校を目指すライバルたちが多く集まって「1点」を競い合い、あるいはスピードを競い合うことが、受験生を大きく成長させるからです。お互いに刺激し合いながら、起床から就寝まで、1分1秒を大切にして、受験勉強に集中できるのがこの合宿です。そして毎年、多くの受験生が、この合宿を機に大きく成績を伸ばし、夢の志望校の合格を勝ち取っています。

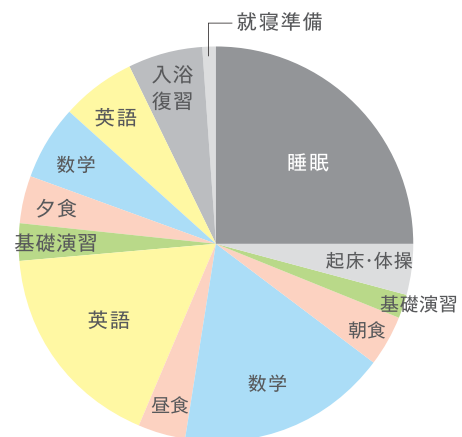
中3の受験生にとって、冬は入試直前のもっとも大事な時期です。そして、もっとも得点力が伸びやすい時期でもあります。また、中2の受験生にとって、この冬はいよいよ「受験生」として本格的な勉強をはじめめる時期にあたります。夢の志望校合格のために、ぜひ合宿にご参加ください。

合宿参加者の主な合格校(2018年度入試)

- 慶應義塾高等学校
- 慶應義塾志木高等学校
- 早稲田実業学校高等部
- 早稲田大学高等学院
- 渋谷教育学園幕張高等学校
- お茶の水女子大学附属高等学校
- 豊島岡女子学園高等学校
- 国際基督教大学高等学校
- 青山学院高等部
- 城北高等学校
- 本郷高等学校
- 川越東高等学校
- 中央大学杉並高等学校
- 法政大学第二高等学校

ほか多数

合宿における1日のスケジュール

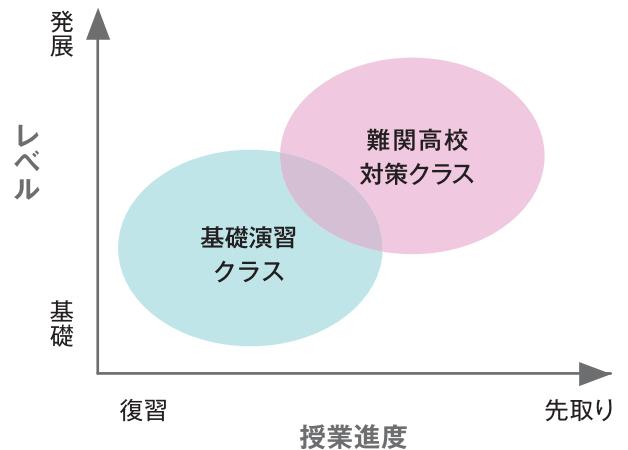


志望校・学力別のクラス編成

中2 英数集中特訓

数学・英語のそれぞれについて、クラス分けテストの成績によって「難関高校対策クラス」と「基礎演習クラス」に分けて授業・演習を行います。

「難関高校対策クラス」では、中3範囲の先取りを重視したカリキュラムで授業を進めます。「基礎演習クラス」では、中2までの範囲の復習を重視したカリキュラムで演習・解説を行います。



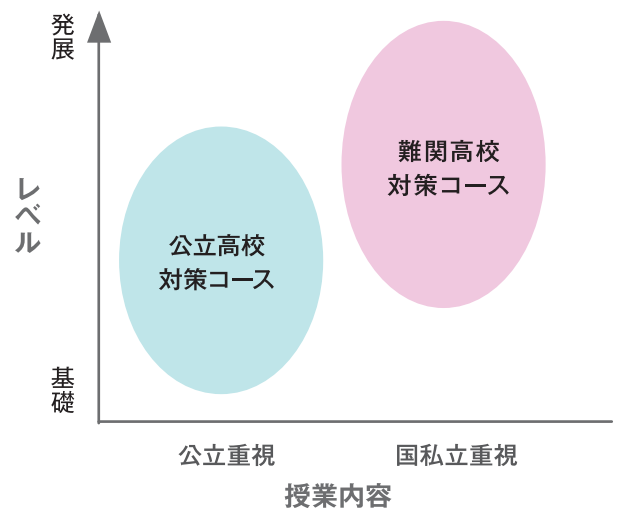
中3 英数直前特訓

難関高校対策コース

開成高校、国立大附属高校、早慶大附属高校や都立日比谷・西といった難関高校を志望する受験生のためのコースです。入試問題の演習と解説を中心に授業を行います。

公立高校対策コース

東京・神奈川・千葉・埼玉の公立高校を志望する受験生のためのコースです。公立高校の入試問題演習と、本番の入試でミスをしないうための基礎固めを中心に授業を行います。



計算力・英単語力のトレーニング

受験生の成績が伸び悩む要因としてもっとも多いのが、基礎計算力や英単語力の不足です。そこで合宿では、スピードと正確さを鍛え、学習効率を飛躍的にアップさせるために、全クラス共通で基礎計算力、英単語力の強化を図ります。これだけでも学習効率は大きく変わり、成績が伸びやすくなります。



中2

英数集中特訓

中2からのスタートダッシュが
受験を有利にする

Q クラス分けの基準は？

A 志望校とクラス分けテストの得点を考慮して クラス分けを行います。

クラス分けテストの範囲は、中2全範囲に加えて中3範囲も一部含まれます。中2までの範囲が定着されているかどうか、中3範囲の先取り学習をできているかどうかをクラス分けテストの結果で判断させていただきます。そして、そのクラス分けテストの得点と、申込書にご記入いただいた志望校を総合的に判断して、クラス分けをさせていただきます。

Q 難関高校を目指していますが、「難関高校対策クラス」に入るためにはどうすればいいですか？

A ① 先取りカリキュラムを ② 基礎計算力・英単語力の向上を

「難関高校対策クラス」に入るためには、クラス分けテストで高得点を取れているかどうか、難関校を志望しているかどうか判断基準になります。

難関高校を目指すためには、受験に必要な中3までの全単元をなるべく中3の春までに、遅くとも中3の夏までに身に付ける必要があります。そこから逆算して、「難関校高対策クラス」では、中2までの全範囲を習得できていることを前提として、中3範囲の先取り学習を行います。クラス分けテストの範囲に、中3範囲が一部含まれているのもこのためです。

また、難関高校の入試では基礎計算力・英単語力も高いレベルで求められます。「難関高校対策クラス」の授業でもそれを意識して授業を進めますので、合宿に参加する前から基礎計算力・英単語力のトレーニングを毎日コツコツと続けておきましょう。

Q 「基礎演習クラス」の授業内容は？

A 中2までの範囲の復習を重視します。

中3になる前に、しっかりと基礎固めをしておくことが、成績アップの早道です。数学では特に式の計算と方程式・連立方程式など、英語では過去形や助動詞、不定詞など、中2までの範囲で特に重要なポイントに絞って復習をします。

クラス分けテスト 範囲

教科	範囲
数学	中2までの全範囲 式の展開
英語	中2までの全範囲 受動態

クラス分けテストは、12/7(金)までにお通りの教室で受験してください。テスト日程については、教室の担当者よりご連絡させていただきます。

授業内容

教科	クラス	範囲
数学	難関	式の計算 式の展開・因数分解
	基礎	式の計算 方程式・連立方程式
英語	難関	助動詞・不定詞・ 比較・受動態など
	基礎	be動詞と一般動詞・ 助動詞・不定詞など

※クラス分けテストの結果や、それぞれのクラスの生徒の学習状況によって、一部変更する場合があります。

中3

英数直前特訓

入試直前だからこそ、
「1点」を競い合う実戦演習を

Q 受験直前期に合宿に参加するメリットは？

A 合宿は、「1点にこだわる」「1点を争う」ことを、競争の中で学べる絶好の機会です。

具体的な単元や問題を挙げて、あるいは志望校の過去問を通して、一人ひとりの苦手箇所・つまづき箇所を改善していくためには個別指導が最適です。そのうえで、入試本番を意識し、同じテストを受けるライバルたちと「1点」を争う実戦演習をするためには、合宿が適しています。

言うまでもなく、受験は「1点」の差で合否が分かれる、シビアな競争の場です。ライバルを意識しながら、テストの場で、自分のベストを尽くすこと。「うっかりミス」を絶対に軽視せず、緊張感を持って1問1問の問題に取り組み、順位を競い合うこと。それをできるのが、合宿のメリットです。

例年、開成・早慶附属高校など最難関高校を目指す受験生、公立トップレベルを目指す受験生などをはじめ、多くの受験生が集って真剣に受験勉強に取り組んでいます。そして、お互いに競い合い、励まし合いながら、合宿を通じて大きく成長した姿で、夢の志望校の合格を勝ち取っています。

Q 「難関国私立対策コース」「公立対策コース」のどちらを選べばいいですか？

A 第一志望校に応じてコースをお選びください。

開成・渋谷幕張などをはじめとする難関進学校、早慶附属・MARCH附属など、入試の得点で勝負が決まる高校を志望する方は「難関高校対策コース」をお選びください。また、公立高校でも、自校作成問題を出題する都立日比谷・西などの最難関高校を志望する方は「難関高校対策コース」をお選びください。

「公立高校対策コース」では、東京・神奈川・千葉・埼玉の共通問題で高得点をとるための問題演習と解説を行います。なお、ミスをなくすための基礎固めと復習にも力を入れますので、基礎に不安のある受験生は、「公立高校対策コース」をお選びください。

クラス分けテスト 範囲

教科	範囲
数学	中3までの全範囲 (標本調査は除く)
英語	中3までの全範囲

クラス分けテストは、12/7(金)までにお通りの教室で受験してください。テスト日程については、教室の担当者よりご連絡させていただきます。

授業内容

難関高校対策コース

教科	範囲
数学	関数・図形・整数問題など 難関高校入試問題演習
英語	整序英作文・長文問題など 難関高校入試問題演習

公立高校対策コース

教科	範囲
数学	式の計算・関数・標本調査など 全国公立高校入試問題演習
英語	語彙・対話文・英作文など 全国公立高校入試問題演習

※難関高校対策コース・公立高校対策コースのいずれについても、それぞれの参加者数に応じて、さらに学力別のクラス編成を行います。そのクラスによって、扱う問題の難易度も異なります。

※クラス分けテストの結果や、それぞれのクラスの生徒の学習状況によって、一部変更する場合があります。

大学入試でもっとも大切な英語を短期集中で鍛え、武器にする

英語の成績を伸ばして合格を勝ち取る

短期間に集中して学べる合宿は、英単語・英文法を反復して身につけ、実戦力を鍛える絶好のチャンスです。

高3・卒の受験生にとって、冬は入試直前のもっとも大切な時期です。特にセンター試験で高得点を取るとは、夢の志望校合格のための第一歩になります。センター試験の英語は、しっかり対策をすれば、得点を伸ばせる教科です。そこでTOMASでは、高3・卒の受験生を対象として、センター試験英語直前対策合宿を行います。あえて英語に特化して学習することで、英語の得点力を短期間でも飛躍的に伸ばすことができます。

また、高2以下の受験生にとっても、夢の志望校合格のためには英語の成績アップが欠かせません。東大・京大・一橋大・早稲田大・慶應義塾大などの最難関大学を目指すのであれば、高2のうちに英検準1級レベルの英語力を身につけ、なるべく早く志望校対策に取り組むことが、合格につながります。一方で基礎に不安がある受験生は、一刻も早く網羅的な基礎固めをしておく必要があります。

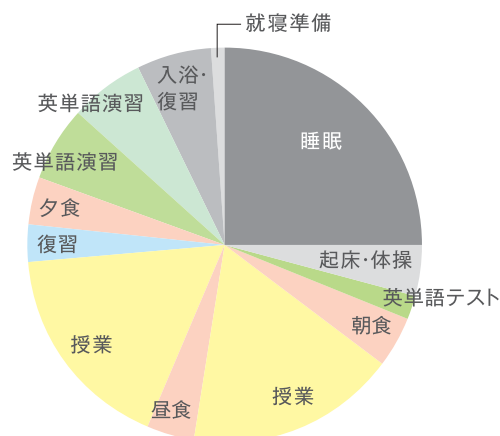
大学入試改革によって新しい入試が始まるのは2021年度入試からですが、英語については、すでに4技能外部検定を入試で利用する大学が増えつつあります。特に高1以下では、国公立大の入試に外部検定が必須になると言われています。英語の成績を伸ばし、夢の志望校合格を勝ち取るために、ぜひ合宿にご参加ください。

英語の外部検定を入試に使えるおもな大学・学部

- 早稲田大学 文化構想学部・文学部・国際教養学部
- 上智大学 全学部
- 東京理科大学 理学部第二部を除く全学部
- 明治大学 農学部・経営学部・国際日本学部・総合数理学部・政治経済学部
- 立教大学 全学部
- 青山学院大学 文学部(英米文学科)・経済学部・経営学部・国際政治経済学部(国際政治学科・国際コミュニケーション学科)・総合文化政策学部・地球社会共生学部
- 中央大学 法学部・経済学部・商学部・文学部
- 法政大学 法学部(法律学科・国際政治学科)・経済学部(国際経済学科)・人間環境学部・現代福祉学部・グローバル教養学部・スポーツ健康学部・情報科学部・理工学部・生命科学部
- 学習院大学 国際社会科学部
- 国際基督教大学 教養学部アーツ・サイエンス学科

ほか多数

合宿における1日のスケジュール



志望大学・学力に応じたクラス編成

中3～高2 英語実戦特訓

難関大学の受験に向けて、短期間で英語の成績アップを図りたい受験生のためのコースです。事前に受験して頂くクラス分けテストの結果によって「難関大学対策クラス」と「基礎演習クラス」に分け、それぞれのレベルに応じて演習と解説を行います。

「難関大学対策クラス」では、東大・一橋大・早稲田大・慶應義塾大などの難関大学合格に向けて、ハイレベルな演習と対策を行います。特に、難関大学で最近増えている、自分の意見や考えを記述する英作文については、重点的に演習と解説を行います。

一方、「基礎演習クラス」では徹底して基礎固めを行います。基礎となる英単語・文法の学習を重視して解説・演習をしたうえで、それを英作文やネイティブ講師との会話の中で使えるように演習し、基礎力の定着を図ります。



最難関大学の入試問題

以下の設問(A)、(B)の中から一つ選んで、問題文Ⅰ～Ⅲをもとにして、自分の意見を英語で書きなさい。

- (A) Should the Japanese government lower the legal age at which alcohol may be consumed to 18? Why, or why not?
- (B) Should the Japanese government abolish the death penalty? Why, or why not?

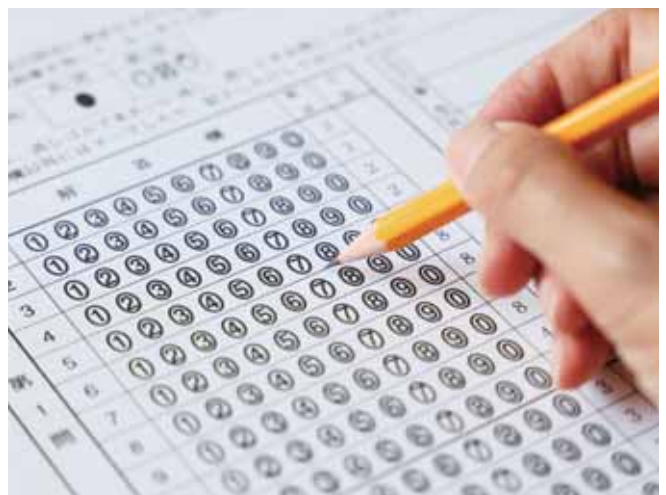
〈2018慶應義塾大(経済) 趣意〉

高3・高卒 センター試験 英語直前特訓

センター試験の英語で満点を狙う受験生、高得点を取りたい受験生のためのコースです。事前に受験して頂くクラス分けテストの結果によって、学力別のクラス編成で授業を行います。どのクラスも、

- ① 大問ごとの傾向別問題演習・解説
- ② センター本番を想定したテスト形式での問題演習・解説
- ③ 基礎となる語彙・文法の演習

を3つの柱として授業を行います。受験生がつまづきやすいポイントに絞り、知識の正確さと処理速度の向上を図ります。



中3～
高2

英語実戦特訓

英語を鍛えれば鍛えるほど
これからの大学入試は有利

Q この合宿ではどのような学習をするのですか？

A 難関大学を目指すために必要な英語力を身につけるために、

- ①英単語
- ②英文法
- ③ネイティブに通じるコミュニケーション能力を鍛えます。

英語の成績を伸ばすためには、英単語力が不可欠です。高2までに志望大学の受験に必要な英単語力を完成させておくことが、志望校合格のための第一歩。この合宿ではそれぞれの英単語力に応じて「ターゲット1200」「ターゲット1400」「ターゲット1900」という3つの英単語集を使いながら、何度も反復練習することで英単語力を鍛えます。わずか4泊5日ですが、300語～600語、あるいはそれ以上の英単語を覚えてしまう受験生もいます。

また、英文法の授業では、動詞の語法・準動詞・受動態・時制・助動詞・仮定法・関係詞などの文法・表現をレベル別のクラスで反復して学びます。ネイティブ講師に学ぶこの合宿は、自分の英語がどれだけ相手に伝わるかを試し、鍛える絶好の機会です。臆すことなく、たくさん間違えて、たくさん指摘された分だけ、英語力を伸ばすことができます。また、英語の表現力を身につけるために、日本人講師とネイティブ講師が協力しながら、英単語・文法・構文などの知識を解説し、反復演習によって定着を図ります。

Q クラスによって授業内容が異なりますか？

A 志望校・学力に応じたクラス分けをしますので、授業で扱うテーマ・内容はクラスごとに異なります。

「難関大学対策クラス」では、東大・一橋大・早稲田大・慶應義塾大・上智大などの難関大学の入試問題演習と、時事的なテーマやニュース素材などについて、それぞれの考えや主張を書いたり、発表し合ったり、ネイティブが添削したりする授業を行います。

一方、「基礎演習クラス」では、基礎となる文法・語彙・基本例文などの定着を重視して授業を進めます。

英語の「4技能」化

これからの大学入試では、「読む」「聞く」「書く」「話す」の4技能がすべて求められるようになっていきます。

文法・語彙の知識が必要なのは今までと同じですが、これからは英語での「コミュニケーション能力」も求められます。

新大学入試は現高1の世代からですが、4技能で英語力を評価する英検、TEAP、GTEC等の検定を大学入試に活用しようという動きがすでに始まっており、難関大学では英検準1級レベルが求められるようになってきています。

これら検定のスコアから、その英語力を評価する目安として用いられるCEFR（セファール）も、最近では認知度が上がり、一般的になってきました。

いずれにしても、これからは「英語ができるか」ではなく、「英語で何ができるか」が問われる時代です。グローバル化する現代にあって、英語の習得がますます重要になっていくことは間違いありません。



▲英語の4技能

高3
高卒

センター試験 英語直前特訓

センター試験で高得点を狙う

Q この合宿では、センター試験対策として、どのような学習をするのですか？

A 160点以上を狙うために必要なのは、

- ① 英単語
- ② 英文法・語法
- ③ スピードを備えた読解力

の3点です。合宿では、これらを徹底的に鍛えます。

センター試験で160点以上を取るためには、配点が大きい長文問題での失点を極力なくすることが重要です。そのために、まず「知らない単語がない」という状態を目指します。それだけでも、160点以上をとれる確率はかなり高くなります。得てして、ここでつまづいている受験生がたくさんいます。

英文法・語法についても、センター試験の英語は、高2までの範囲で十分に対応できる問題がほとんどです。まずは標準的なテキストでしっかりと練習すれば、大きな失点を防ぐことができます。

そのうえで、制限時間80分以内で確実に解き切ることができるように、実戦形式で練習しながら、時間配分を体で覚えることが大切です。この段階で、英単語や英文法・語法の知識が曖昧だと、それだけでもかなり時間をロスしてしまいがちです。時間を節約するためにも、英単語、英文法・語法は見た瞬間に意味や例文が思い浮かぶように、音読・反復トレーニングをしながら身につけていきます。

ここ数年、センター試験の英語は総語数も7年連続で4000語を超えており、たくさんの文章を読ませる傾向があります。資料の読み取りなども出題されています。一つひとつの問題が特別に難しいわけではありませんので、限られた時間で、すらすらと問題文の意味が分かる英単語力・文法力と、読解スピードを身につけることができれば、本気で満点を狙えます。

このように、わずか4泊5日の合宿ですが、英単語、英文法・語法、スピードを鍛えることで、センター試験での得点力を伸ばすことができます。実際、この合宿に参加したことで、センター試験の本番でも今までにない高得点を取れたという受験生がたくさんいます。ぜひ、ご期待ください。

センター試験の出題方針は？

センター試験の出題方針は、(独)大学入試センターから毎年公表されており、平成30年度の場合は次のような内容でした。

- (1) 高等学校学習指導要領に準拠し、「読むこと」だけでなく「話すこと」、「書くこと」も含めたコミュニケーション能力の達成度を測れるような工夫をする。
- (2) 現代の標準的な英語を言語材料とする。
- (3) 語彙、語法、慣用語、文法、表現に関する知識だけでなく、社会言語的側面、談話的側面、方略的側面も含め言語運用能力を総合的・多角的に測る。また、情報を整理し、統合し、批判的に考え、思考する力を測る工夫をする。
- (4) 取り上げる題材は、受験者にとって有用で一般的なものを選ぶ。
- (5) 問題は易しいものからやや難易度の高い発展的なものまで幅広く用意し、受験者の達成度を公正かつ正確に測ることができるよう留意する。
- (6) 使用する語彙は、高等学校における英語の履修範囲を考慮して選択する。長文読解や読解方略に関わる問題においては、やや頻度の低い語句を使うこともあるが、その場合でも文脈から推測できるように配慮する。
- (7) 過去の試験問題評価委員会報告書において要望や批判があった事項について、出題の形式、内容の改善を図る。
(平成30年度「試験問題評価委員会報告書」より)